

## 実践例「学校・学級経営の深化・充実」

### 「課題1 確かな経営理念の確立と、家庭や地域と連携した確かな学びを創る特色ある教育課程の創造と深化」

#### I 学校名 北見市立相内小学校【オホーツク管内】

#### II 研究の概要

##### 1 研究主題

子どもの主体性を育む日常の授業改善

##### 2 主題設定の理由

前計画では、「伝え合う力をもった子どもの育成」という主題での三年計画の研修を行い、聞き方「あいうえお」の聞く姿勢や話し合いに向かう態度は十分育ってきたという成果があげられた。しかし、話ときに「誰に」「何のために」という相手や目的を意識した話し方や伝え方には課題が残った。また、教師側の課題として、子どもたちが自分の考えをまとめたり表現したりするための時間の設定や板書・ノート指導についても課題としてあげられた。

これからの社会に生きる子どもたちは、主体的に課題を発見し解決に導く力が求められる中、本校の児童の課題として、主体性の不足と自己肯定感の低さがあり、令和2年度の経営の重点が「子どもたちの『主体性』と『自己肯定感』を高める教育活動の展開」と設定されている中、三年計画の研修がスタートした。また、本校の児童は相手を意識した話し方や話す技術、豊かな語彙力、主体的な活動、読解力の不足もあげられる。これらを培うのは、日々の授業の積み重ねであり、その授業を組み立てていくのは私たち教師である。子どもたちの主体性や自己肯定感を高められるような授業を計画・実践し、授業の改善を行っていくことで本校の児童の課題が解決され、主体性を育むことにつながると考えた。

##### 3 研修内容と具体的取組内容

###### ①具体的な方策1「課題の重点化」

3つの視点に基づいて、具体的な取組内容と指標を設定し取り組む。

###### ア 学習環境の充実

- ・ユニバーサルデザインを意識した環境づくり
- ・ICTの効果的な活用

###### イ 授業改善に向けた取組

- ・自分の考えをもつことができる授業づくり

###### ウ 家庭との連携

- ・自学を通じた保護者との連携

## ②具体的な方策2「検証改善サイクルの活用」

様々な方法で、日常の学習を見直し、授業改善を図る。

ア ロードマップを作成し、計画的に成果検証を実施

- ・オホーツク教育局による「オールオホーツクで学力向上を」のロードマップを本校の課題に照らしあわせて作成し、計画的に検証を行う。

イ 全国学力・学習状況調査結果、チャレンジテストを分析し、授業改善の視点を設定。

- ・計画に基づいてチャレンジテストの結果を分析し、授業改善の視点を明確にし、実践検証する。

ウ 3つの視点の課題改善に向けた交流授業を行う。

- ・3つの視点に基づいた課題改善を意識した交流授業を行い、授業改善の方向性を共有。
- ・学校教育指導等を活用し、授業改善に向けた指導・助言を受ける。
- ・北見市授業力向上研修会において、講師（樺山敏郎）より授業改善に向けた指導・助言を受ける。

エ 学習内容の定着を図る学び直しを行う。

- ・児童の学習内容の定着度をもとに、各学期末における「学び直し」の機会を設定し、学習内容の定着を図る。

## Ⅲ 実践例

### 1 相小っ子タイム

#### ①概要

総合的な学習の時間・社会科の時間等を活用し、3年生から6年生まで年間を通して学ぶテーマを設定し、学年ごとに学びを深める活動。

【3年生のテーマ】 わたしたちのまち自慢「玉ねぎ・ビート」

北見市の代表的な農産物「玉ねぎ」と、主に北海道でしか栽培されていない「ビート」について、相内地域でも栽培されていることから身近な農作物として、社会科の学習と教科横断的に取り組んでいる。

ア 年間指導計画の概要

5月 JAきたみらい、北見市農政課の方々を講師に招き、玉ねぎ栽培を学ぶ

9月 JAきたみらい玉ねぎ選果場見学

12月 出前授業「ビートから砂糖ができるまで」

12月 ビートから砂糖づくり

2月 相小っ子タイム発表

イ 活動の様子

玉ねぎ定植



ビートに関する出前授業



ビートから砂糖づくり



【4年生のテーマ】 SDG's「ごみを減らそう」

身近な環境問題を調べることから、SDG'sの考えに触れ、自分たちでできることを考え、実践する学習。社会科の施設見学とリンクさせ、段ボールでコンポストを作って管理するなどの活動に取り組んだ。

ア 年間指導計画の概要

6月 施設見学（ごみ集積場）

9月 施設見学（浄水場）、コンポストでたい肥作り

12月 ごみを減らそう「チョークづくり」

2月 相小っ子タイム発表

イ 活動の様子

浄水場見学



段ボールコンポスト



チョークづくり



【5年生のテーマ】 お米博士になろう

相内地域で栽培されており、数年前までは地域の方に依頼し、田んぼを借りて全校で取り組んでいたが、現在は規模を大幅に縮小して5年生のみで取り組んでいる。苗を作るところから、収穫・脱穀まで行っている。

ア 年間指導計画の概要

5月 田植え

9月 米の収穫

11月 脱穀

2月 相小っ子タイム発表

イ 活動の様子

田植えの様子



収穫の様子



脱穀の様子



## 【6年生のテーマ】 アイヌ文化を学ぼう

相内（あいのない）の地名の由来はアイヌ語の「アイヌナイ（人のいる沢）」から来てい  
るとされており、相内小学校 6 年生になると総合的な学習の時間でアイヌ文化について  
学び、修学旅行での学びを軸にして、調べ学習等を行っている。

### ア 年間指導計画の概要

5 月 相内はアイヌナイ

7 月 修学旅行「アイヌコタン」

12 月 アイヌ文様・刺繍・料理を学ぶ

2 月 相小っ子タイム発表

### イ 活動の様子

阿寒湖畔のカムイコタン



釧路市立博物館にて学芸員による説明



## 2 相小っ子タイム発表会

2 月の参観日にて、3 年生から 6 年生が順に保護者や他学年の児童に向けて発表。



## 3 成果と課題

### 【成果】

- ・ 「相小っ子タイム発表」があることにより、協働的・対話的で深い学びに繋がっている。また、下学年の児童にとっては、次の学びに向けた明確なビジョンとして繋がっている。
- ・ 各学年のテーマが伝統的に続くことにより、指導者にはデータが蓄積され、改善しながらより良い学びに繋がっている。

### 【課題】

- ・ コロナ禍により、地域との繋がりが離れつつあるので、アフターコロナに向けて再構築していく必要がある。